

しじゅうから



いきもの
豆ちしき



季節は春と秋。小鳥の森でも9月になると渡り鳥を感じられるようになります。よく見られる場所は



▲エゾビタキ

「森のサンゴ」とも呼ばれたりもします。実は熟すと黒くなり、その頃になると、色々な野鳥が実を求めて、この木を訪れます。その中でも代表的な種類はエゾビタキ。繁殖地はロシアから中国にかけてあり、日本では主に秋によく見られます。小鳥の森では例年、9月中旬頃から見られるようになります。エゾビタキの他には小鳥の森にも夏鳥として飛来する福島県の鳥キビタキやコサメビタキなどのヒタキ類、クロツグミなど渡りの途中の野鳥に加え、メジロやエナガ、コゲラなどの留鳥もやってきます（留鳥と言っても渡っている個体もいます）。

野鳥が来る場所がわかっている場合は定点観察が一番。毎回、何が見られるかわからない楽しみもあります。



▲ミズキの実を目当てにやってきたメジロ

9月になると野鳥の渡りが本格的になってくる季節です。身近に見られる野鳥の中でも、季節によって見られる野鳥は変わります。「渡り鳥」という言葉は聞いたことがある人はいると思いますが、詳しく説明すると、季節によって子育てや食料などの変化に合わせて長距離を移動する鳥のことを言います。渡り鳥が移動する



▲ミズキ

季節は春と秋。小鳥の森でも9月になると渡り鳥を感じられるようになります。よく見られる場所は木の実がなる場所です。移動途中の疲れている時の栄養補給としては熟した木の実がぴったり。また、木の方も鳥の渡りに合わせるかのように実が熟し、鳥に食べてもらうことで、自分の子孫を遠くへ運んでもらうのです。植物側の戦略も理にかなっていて素晴らしいものです。

小鳥の森で渡りの途中の鳥がよく訪れる木はミズキ。階段状の樹形になることから「テーブル・ツリー」と呼ばれたり、果実がつく枝が赤くなり、珊瑚のように見えるため、

イベントあるよ

●バッタとあそぼう

初めての自然体験として、バッタ採りをします。

日時：9月13日(日) 10時～11時30分

場所：小鳥の森ネイチャーセンター

対象：幼児と保護者

持ち物：長袖、長ズボン

定員：5組

※どちらも
9月1日より
電話にて受付
します。

●外来種駆除

外来種について学ぼう

日時：9月27日(日) 10時～12時

場所：小鳥の森ネイチャーセンター

対象：小学生以上

持ち物：軍手、長靴

定員：5組

しじゅうピークイズ：世界の渡鳥のなかで、最も長い距離を飛ぶ鳥はキョクアジサシですが、ではその移動距離は往復でどれぐらいでしょう？

①約6500km

②約4万km

③約8万km

※因みに日本列島の長さは約3300kmです。

たからもの 森の宝物探し

小鳥の森で宝物（自然の中の生き物）を見つけることができればオリジナル缶バッジをプレゼントしています。その日に見つける宝物が何かをネイチャーセンターで確認して、写真を撮ってレンジャーに見せるとミッションクリア！

今月の生き物はコレ

サシバ (タカ科)



サシバは「差し歯」ではなく「差羽」と書きます。野鳥の名前の図鑑を見てみると、とても難解な由来が書かれていました。『「立ち上る」「一定の方向に直線的に運動する」という意味の「さし」に、「鳥」を意味する「羽」がついてサシバ。』どうでしょう？由来は分かりましたか？これを理解するにはサシバの行動を理解する必要があります。サシバは本州では夏鳥で9月下旬～10月中旬頃に南下を始めます。その時に、上昇気流に乗って、数百羽のサシバがらせんを描くように上空に舞い上がります。これを「タカ柱」と言います。そこから、一気に同じ方向へ向かって流れるように飛んでいきます。これらの様子を思いうかべれば、前述の由来は理解できるでしょうか。

サシバは田んぼや湿地などにいる、は虫類や両生類を主なエサとしています。3月下旬～4月上旬頃の繁殖の時期になると、オスが急降下と上昇を繰り返したり、輪を描きながら飛行したりとメスへのアピールを繰り返しながら、「ピックイー」と鳴きます。このような行為を「ディスプレイ飛行」と言います。見事アピールが成功すると、エサ場の近くの山地に営巣します。サシバは里山のタカと呼ばれ、農耕地に多く生息しています。小鳥の森ではあまり見られませんが、農耕地そばの電柱から、獲物を狙っている姿が市内でも見られるかもしれません。

しじゅっぴーのつぶやき

飼育したカブトムシ
どうしてる？



夏休みも終わりましたが、自由研究や夏の風物詩として、カブトムシやクワガタムシなどの昆虫を飼育していた人もいたことでしょう。上手に飼育していれば、もしかしたらまだ、成虫が生きている人もいるかもしれません。さらに、繁殖に成功して、卵が産まれた人もいるかもしれませんね。

ここで問題です

- もう夏が終わったので、かわいそうだから外に逃がしてあげよう。
- 卵がいっぱい産まれたから、その辺の森に返そう。

さて、よくありがちなこの行為、やってもいいでしょうか？

答えはもちろん**絶対にダメ**です。

ではどうしてだめなのでしょう？まず、その昆虫はどうやって入手しましたか？どこかの森の中？ペットショップ？誰かからもらった？さらに、その昆虫たちの産地は分かっていますか？なぜ、こんな質問をするかというと、別の場所で産まれた昆虫を野外に放す事にリスクがあるからです。



カブトムシ

リスク1：その地域への病原菌や寄生虫の持ち出し。

リスク2：放たれた地域の個体との遺伝子交雑。

どちらも影響はとても深刻です。場合によっては、これらのリスクのせいで、その地域の絶滅を引き起こす事になるかもしれません。特にリスク2は、遺伝子の交雑でその地域特有の特徴がなくなったり、その環境に適応できなくなってしまうたりと、深刻な状況を生みだします。それは、福島市内という狭い範囲でも起こりえます。まずは、最後まで責任を持って飼育し続ける事を心掛けましょう。そして、この機会に、ぜひ生き物を飼う事について考えてくださいね。



ノコギリクワガタ

最新情報はこちら

福島市小鳥の森（ネイチャーセンター）

《入場無料》休館日：毎週月曜日

（祝祭日の時はその翌日）

開館時間：午前8時30分～午後5時



Instagram



X(エックス)



ホームページ

